

高槻市災害時要援護者支援事業

地域の取組事例



はじめに

平素から、本市の災害時要援護者支援の取組にご理解ご協力を賜りまして、ありがとうございます。

この資料は、地域の皆さんから情報提供をいただきました取組事例をまとめたものです。地域において災害時要援護者支援の取組を進めるにあたり、地域の実情に合わせて、ご紹介しました取組内容について参考にしていただければ幸いです。

今後も地域でのさまざまな取組をとりまとめ、ご紹介をしてまいりますのでよろしくお願いたします。

* 「災害時要援護者名簿」

災害時要援護者支援事業の申請をされた要援護者の情報を掲載した名簿。市から、地域の団体（民生委員児童委員、地区福祉委員会、地区コミュニティ）に「災害時要援護者名簿」の提供を進めている。

* 「同意者」

災害時要援護者支援事業の申請をされ、「災害時要援護者名簿」に掲載されている要援護者。

平成30年度


1 柳川地区

地区コミュニティの支援による各自治会での体制づくり

▶ 概要

○ 目的	災害時要援護者名簿を受領している団体間での連携が必要と考え、協議の場を持つとともに、各自治会を主体として取り組むことにより、隣近所で助け合える関係づくりを推進する。
○ 主催	柳川地区コミュニティ協議会 コミュニティ加入自治会 地区福祉委員会、民生委員児童委員
○ 時期	平成27年8月 名簿受領 平成28年2月 支援連絡会結成 平成28年11月 自治会長会議開催

人口：約 7,400 人
要援護者数：約 750 人
うち同意者：約 320 人
コミュニティ加入
自治会数：19 自治会



▶ 取組経過

- 地区コミュニティからの呼びかけで、地区福祉委員会、民生委員児童委員の三者で柳川地区支援連絡会を結成し、合計7回開催した。協議の結果、各自治会において安否確認・避難誘導等を実施することとなった。
- 自治会長会議において、地区コミュニティが自治会に協力を依頼するとともに、各自治会内の要援護者名簿を開示し、自治会ごとに安否確認等の方法を考えてもらった。
例) 会長、副会長が訪問する。 副会長が電話し、不通なら訪問する
班長、両隣で行う。 など
- 大阪府北部地震の際には、ほとんどの自治会が安否確認を実施していた。
- 自治会長会議において、大阪府北部地震での経験等を踏まえた課題や安否確認の方法等について検討した。
- 自治会ごとの方法で安否確認する旨を各自治会から要援護者に知らせて了承を取った。
- 自治会長会議において、地区コミュニティが自治会に対して、経過をまとめた資料を渡し、新自治会長にも引き継ぐよう依頼した。

柳川地区コミュニティ協議会会長との意見交換会を開催しました！！

先進事例を紹介し、各地区での取組を推進するために意見交換会を実施しました。

当日は、地区コミュニティ、地区福祉委員会、民生委員児童委員の方々が参加され、それぞれの立場から柳川地区の取組に関する質問や、各地区の取組を紹介するなど、活発な意見交換が行われました。



意見交換会の様子


2 玉川・牧田地区

安否確認を円滑に行うための取組

▶ 概要

○ 目的	大規模災害時に地域住民の安否確認を円滑に行う。
○ 主催	富田団地自治会

人口：約 7,000 人
自治会世帯数：2,645 世帯
班数：265 班



▶ 内容

【日頃の取組】

災害時の安否確認を円滑に行うため、自治会員にドアに貼り付けるマグネットを配布するとともに、平常時の見守り訪問対象者にはドアノブにかけるリボンを配布した。

【大阪府北部地震】

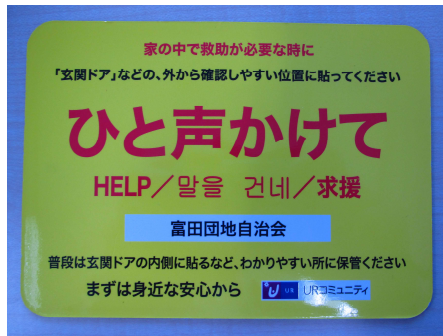
上記のマグネットやリボンが安否確認に活用されるとともに、要援護者に関わらず隣同士で安否を確認するよう、団地の拡声器を使って呼びかけた。

【今後に向けて】

防災訓練等を通じて、上記の取組などを再度周知し、地域住民の防災への関心を高める。



【マグネット表】
無事を知らせる



【マグネット裏】
支援が必要であることを知らせる



ドアノブにかけるリボン


3 西大冠

災害時要援護者の安否確認訓練を実施

▶概要

○ 目的	大阪府北部地震での経験を踏まえ、災害時要援護者の安否確認をより円滑に行えるよう、各団体との連携・協力をより密にし、安否確認の方法を共有する。
○ 主催	地区防災会
○ 協力	地区コミュニティ協議会、民生委員児童委員地区委員会、地区福祉委員会、老人連合会、コミュニティセンター管理運営委員会
○ 時期	平成31年2月（市全域大防災訓練）
○ 避難所	西大冠小学校
○ 参加者	266人（訓練全体の参加者）

人口：約8,000人
要援護者数：約450人
うち同意者：約220人
地区防災会加入
自治会数：16自治会



▶内容

【役員の安否確認】

電話回線不通を想定し、地区防災会の役員や民生委員児童委員が避難所に集合してお互いの安否を確認した。

【災害時要援護者の安否確認・避難誘導等】

統括指揮者の指示のもと、各自治会から選出された防災要員と民生委員児童委員が連携し、安否確認・避難誘導等を実施した。

防災要員は自治会員の安否確認・避難誘導を行い、民生委員児童委員は、担当区域内の要援護者宅に訪問し、安否確認及び避難の呼びかけを実施した。

安否確認をより円滑に行うため、訪問経路を確認するとともに、安否を確認した自治会員及び要援護者宅の玄関先に安否確認済シールを貼り付けることとした。

【今後に向けて】

住民からも安否の情報を発信できるよう、各団体と連携して安否確認済シールを自治会員に配布し、災害時の安否確認を円滑に行える体制づくりに取り組む。



民生委員児童委員がお互いの安否を確認



民生委員児童委員が要援護者に避難を呼びかけ



安否確認済シール



避難所の体育館の様子


4 西阿武野地区

障がいのある人との懇談会（おしゃべり会）を実施

▶概要

○ 目的	障がいのある人もない人も、地域住民としてお互いに知りあい、日ごろから交流できる関係づくりを図るとともに、地域住民の障がいへの理解を深める。
○ 主催	西阿武野地区福祉委員会
○ 時期	平成31年3月
○ 場所	西阿武野コミュニティセンター
○ 参加者	48人 （うち災害時要援護者と その家族等13人）

人口：約 13,400 人
要援護者数：約 500 人
うち同意者：約 240 人



▶内容

【事前準備】

地区福祉委員会から「災害時要援護者名簿」に掲載されている障がいのある人とその家族を対象に、懇談会への参加の呼びかけを行った。

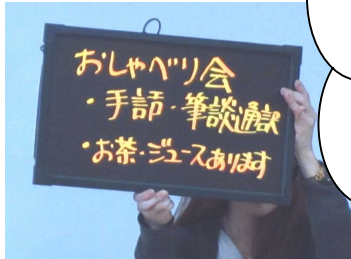
地区の民生委員児童委員や自治会・自主防災組織の役員にも声かけをして参加をお願いした。

【当日】

日常生活での困りごと、平成30年6月の地震や9月の台風の際の体験、今後の災害への備えなどについて話した。

休憩の時間や終了後には、参加者同士で雑談をするなど、自然な交流が生まれた。

毎年参加してくださる人もおり、会の目的である、地域の中で普段から挨拶をしたり声をかけ合う関係づくりを進めることができた。



当日の懇談会の様子

おしゃべり会のご案内

西阿武野地区福祉委員会では、多くの皆様のご参加のもと、毎年この時期に懇談会（おしゃべり会）を開催しています。障がいのある方や地区福祉委員会、民生委員児童委員の皆さんと楽しくお話をしませんか。

▶取組のポイント

- 「災害時要援護者名簿」をもとに直接ご案内を郵送し、障がいのある人が気軽に参加できるように、ご案内の文面に工夫をした。
- 障がいの特性や体調等を考慮して休憩時間を設けた。また、参加者に自由に飲んでもらえるよう、温かいお茶やジュースなどを準備し、リラックスして話ができるように工夫をした。
- 平成27年度から毎年度継続して実施し、障がいのある人もない人も、同じ地域で暮らす住民として交流できるよう努めている。

平成29年度


1 北阿武野地区

「災害時ひとりも見逃さない」災害時要援護者支援避難訓練を実施

▶ 概要

○ 目的	「災害時要援護者名簿」を活用し、発災後における避難に際して、近隣住民（自治会）が団結して支援することによって、人的被害を軽減するとともに、自助・共助・公助の連携を図り、地域住民の支援体制の確立及び防災思想の高揚を図る。
○ 主催	北阿武野コミュニティ協議会、北阿武野地区福祉委員会及び民生委員児童委員協議会南平台地区委員会で構成する実行委員会
○ 時期	平成28年10月
○ 避難所	南平台小学校体育館
○ 参加者	170人 (うち災害時要援護者 21人)

人口：約7,300人
要援護者数：約400人
うち同意者：約180人
訓練協力自治会数：11自治会



▶ 内容

【事前準備】

自治会等から「災害時要援護者名簿」に掲載されている要援護者約150人に、訓練参加の呼びかけを行った。直接呼びかけることで、訓練参加・不参加に関わらず、要援護者と顔を合わせる機会となった。

また、参加人数に応じて、各自治会から支援者の参加を依頼した。



一時避難場所に集合



要援護者の避難誘導

【当日】

自治会単位であらかじめ決めていた一時的な避難場所に集合し、要援護者の安否を確認した後、支援者による避難誘導を行った。道中の会話を通して、お互いの理解を深めることができた。

避難所では、自治会単位で座る場所を指定し、要援護者と支援者が共に資機材展示の見学や防災ミニ講話を聞くなどした。

◇ 参加者の声 ◇

- ・災害時要援護者支援事業の申請をして、訓練に呼びかけてもらったのでよかった。(要援護者)
- ・今後、自治会での災害時要援護者支援避難訓練を実施したい。(自治会)
- ・要援護者が避難訓練に参加できるよう、対応を考えたい。(自治会)

No.	参加者氏名	区・町・地	性別	条件付参加の場合記入
1		高・津・地	男・女	
2		高・津・地	男・女	
3		高・津・地	男・女	
4		高・津・地	男・女	
5		高・津・地	男・女	
6		高・津・地	男・女	
7		高・津・地	男・女	
8		高・津・地	男・女	
9		高・津・地	男・女	
10		高・津・地	男・女	

要援護者の参加状況調査表

▶ 取組のポイント

- ・自治会が組織されていない地域は、実行委員会が手分けをして名簿に掲載されている要援護者に参加を呼びかけた。
- ・口頭のみでなく案内文を添えて、要援護者への参加呼びかけを行った。
- ・多くの人に参加してもらうため、気候を考慮した時期に開催した。

2 冠地区

障がい者団体及び福祉施設と連携・協力した訓練を実施

▶ 概要

○ 目的	コミュニティ未加入自治会及び自治会未加入世帯への訓練参加を呼びかけ、訓練を通じて、「自主防災会」の意義と役割を再認識し、各自治会単位での「自主防災会」結成への取組を促進する。 また、日頃からの交流を活かし、高槻市障害児者団体連絡協議会（高障連）や冠地区内の福祉施設と連携した訓練を実施する。
○ 主催	冠地区コミュニティ協議会及び冠地区防災会で構成する実行委員会
○ 時期	平成 28 年 11 月
○ 避難所	冠小学校体育館
○ 参加者	303 人（うち高障連 11 人、施設 13 人）

人口：約 6,500 人
要援護者数：約 350 人
うち同意者：約 150 人
訓練協力自治会数：16 自治会



▶ 内容

【事前準備】

地域住民の障がいに対する理解が深まるよう、高障連に訓練への参加を依頼するとともに、地区内の福祉施設 4 施設に参加の呼びかけを行った。

また、地区全体で防災・減災に取り組むため、すべての自治会及び自治会未加入世帯に訓練の参加を呼びかけた。

【当日】

自治会単位であらかじめ決めていた一時的な避難場所に集合し、全戸に配布している「冠地区防災マップ」の避難経路に基づき、避難を開始した。

避難所では「自治会」「個人参加」「要援護者」に分けて受付を行い、要援護者の受付場所には、筆談用のホワイトボードを用意した。

また、障がい当事者から日常で困っていること、災害時に必要な配慮や支援などについて説明し、参加者は熱心に耳を傾けていた。

訓練の最後には、視覚障がい者によるハーモニカ演奏に合わせて合唱するなど、参加者の交流を深めた。



障がい当事者が
必要な配慮などを説明



ハーモニカ演奏に合わせて
「ふるさと」を合唱

▶ 取組のポイント

- ・ コミュニティ未加入自治会や自治会未加入世帯にも訓練の参加を呼びかけた。
- ・ 障がい当事者が普段から地区の行事や催しに参加しており、その関係を活かして、高障連と連携・協力して訓練を実施した。
- ・ スポーツ団体の子どもたちなど、幅広い年代の人に参加を呼びかけた。
- ・ 訓練を通じて、地区内の福祉施設とも連携を深めた。

3 西阿武野地区

障がいのある人との懇談会（おしゃべり会）を実施

概要

○ 目的	障がいのある人もない人も、地域住民としてお互いに知りあい、日ごろから交流できる関係づくりを図るとともに、地域住民の障がいへの理解を深める。
○ 主催	西阿武野地区福祉委員会
○ 時期	平成 29 年 3 月
○ 場所	西阿武野コミュニティセンター
○ 参加者	43 人 (うち災害時要援護者とその家族等 17 人)

人口：約 13,600 人
要援護者数：約 580 人
うち同意者：約 220 人



内容

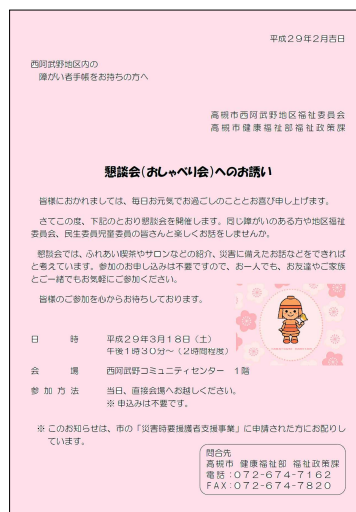
【事前準備】

地区福祉委員会から「災害時要援護者名簿」に掲載されている視覚障がいや知的障がいのある人、その家族を対象に、懇談会への参加の呼びかけを行った。

参加申込みを不要とすることで、気軽に参加ができるようにした。また、お菓子やコーヒー、ジュースなどを準備し、和やかな雰囲気で開催できるよう工夫をした。

なお、地区の民生委員児童委員や地区コミュニティの役員にも声かけをして参加をお願いした。

また、高槻市障害児者団体連絡協議会と連携し、団体の活動や災害に対する取組等を紹介した。



案内文

【当日】

子育て世代や働いている人、高齢夫婦など、幅広い世代の障がいのある人、その家族の参加があり、日ごろの生活や困りごと、災害に備えて気になっていることなどについて、参加者同士で話し合った。

後日、障がいのある人が地域の催しに参加されるなど、日ごろからの顔の見える関係づくりを進めるきっかけとなった。



当日の懇談会の様子

取組のポイント

- ・「災害時要援護者名簿」をもとに、直接ご案内を郵送した。また顔見知りの人には直接お声かけをした。
- ・障がいのある人が気軽に参加できるよう、ご案内の文面に工夫をした。
- ・障がいの特性等についてより深く理解することができるよう、また、同じ地域で暮らす障がいのある人同士の交流にもつなげられるよう、ご案内する対象者を視覚障がいのある人、知的障がいのある人とした。今後、他の障がいについても懇談会を実施することで、様々な障がいについての理解を深める。

高槻市 健康福祉部 地域共生社会推進室

TEL (072)674-7162 FAX (072)674-7820

【災害時要援護者支援事業ホームページ】

<https://www.city.takatsuki.osaka.jp/site/bousai/2181.html>

